

## IAUD Newsletter vol.5 第20号 (2013年3月号) 目次

- 1. 「第1回 IAUD アンケート調査」結果報告 . . . . . 1
- 2. IAUD アワード 2012 受賞紹介⑦ . . . . . 5
- 3. IAUD アワード 2013 応募受付開始のお知らせ . . . . . 10
- 4. 成果報告会&定例セミナー開催のお知らせ . . . . . 10
- 5. 第2回 UD 検定 初級 講習会&検定試験 実施のご案内 . . . . . 11
- 6. スペイン UD 通信 . . . . . 11
- 7. IAUD 4月の予定 . . . . . 12

### 現状の IAUD 活動に対する認知度や評価を確認

#### 特集：「第1回 IAUD アンケート調査」結果報告

情報交流センターは、2012年12月10日(月)から2013年1月11日(金)にかけて、IAUDの全会員ならびに現時点ではIAUDの活動に関わっていない方々を対象に、ウェブ上で「第1回 IAUD アンケート調査」を実施しました。

アンケートの内容は、UDについての質問が4項目、IAUDについての質問は8項目、最後に回答者のプロフィールについての質問が3項目です。

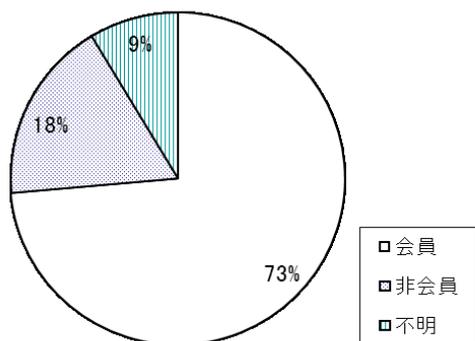
アンケートには予想を大きく上回る約200名の方々から回答をいただきました。

今号のNewsletterは、「第1回 IAUD アンケート調査」の主な結果をご報告いたします。

※HPで実施された「第1回 IAUD アンケート調査」はこちらをご覧ください↓

<http://www.iaud.net/udroom/archives/1212/10-000000.php>

#### 1. 総回答者数 198 名～回答者属性



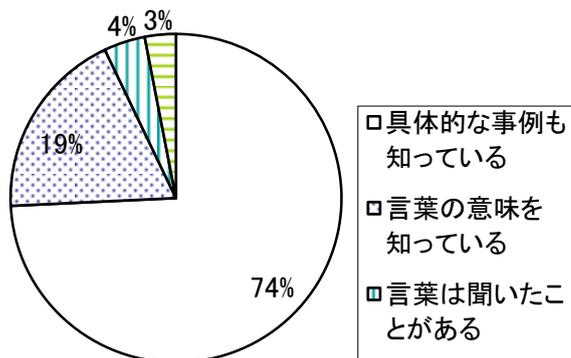
総回答者数は198名となり、当初目標とした100名を大きく上回りました。

うち、IAUD会員は全回答者の73% (145名)を占めました。

年代別では、40歳代(72名:36%)を筆頭に、50歳代(54名:28%)、30歳台(40名:20%)、60歳台(16名:8%)、20歳台(13名:7%)と続きました。

また、身体障害者手帳の所持者は全体の5%(10名)でした。

## 2. 97%がUDを認知～UDの認知度と利用状況

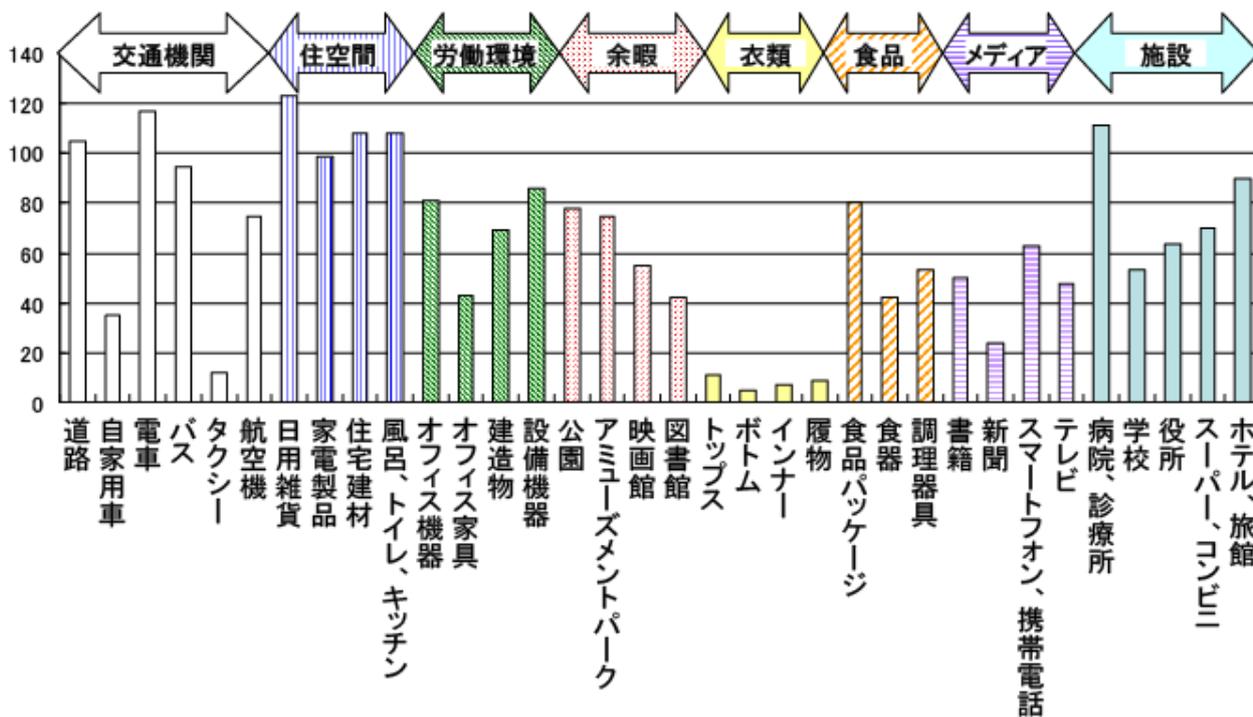


UDについて、「言葉は聞いたことがある」を含めて、全体の97%が何らかの形で認知しています。しかしながら、「具体的な事例」の認知度は74%となり、全体の約4分の1がUDについて認知はしているが具体的な事例を理解していないとの結果になりました。

UDの施設・製品の利用状況では、「利用したことがある」との回答が87%あり、大多数が日常的にUDに触れる機会があるとの回答でした。

一方、「わからない」との回答も8%存在し、前問のUDの認知状況ともあわせると、UDへの具体的な取り組み事例の普及活動の必要性が浮き彫りになりました。

### 利用が少ない「衣のUD」

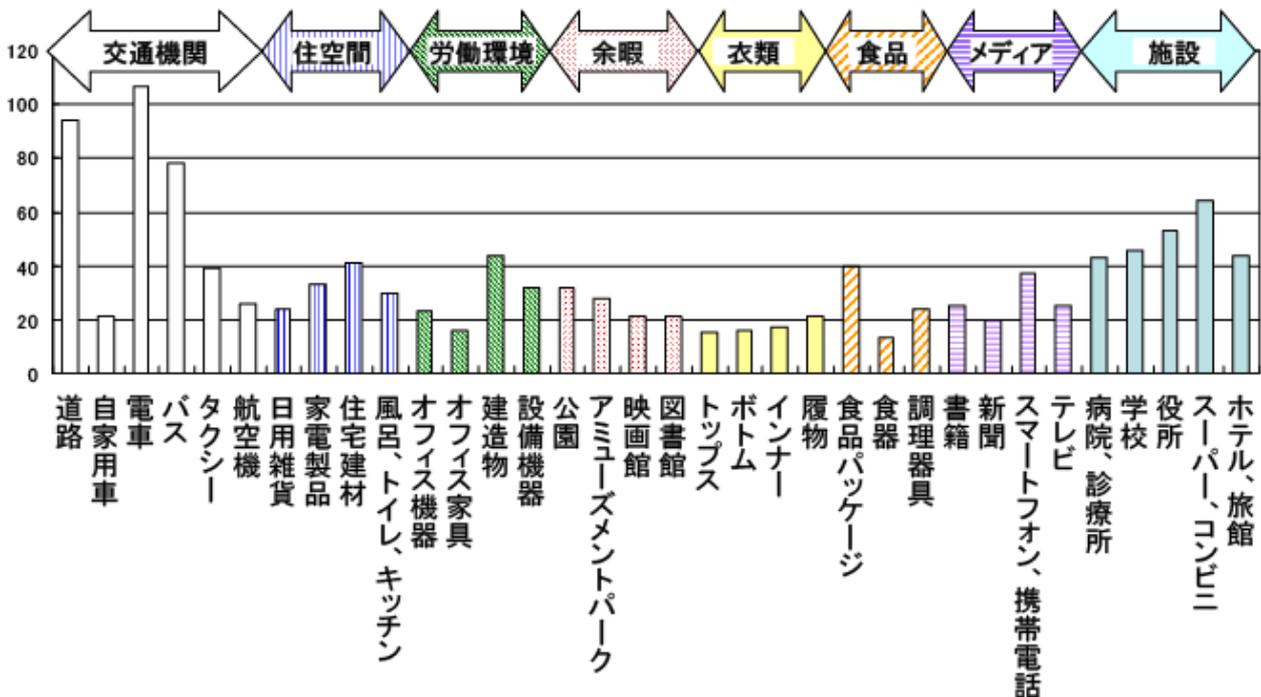


具体的な利用経験では、電車（117票）・道路（105票）等の「交通機関」、日用雑貨（123票）・住宅建材（108票）・風呂&トイレ&キッチン（108票）等の「住空間」、病院&診療所（111票）等の「施設」を中心に施設・製品の利用が進んでいます。一方で、「衣類」のUDは全般的にあまり利用が進んでいないこともわかりました。

### 3. UD 化の改善が必要な「交通機関」～今後求められる UD 活動

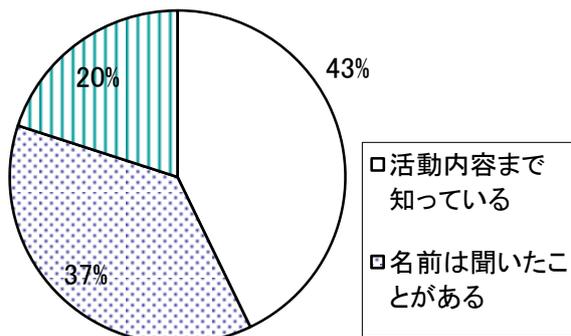
UD の普及が期待されるにもかかわらず、UD への配慮が足りず改善が必要と感じる施設・製品は、電車（107 票）・道路（94 票）・バス（78 票）等の「交通機関」が突出しています。「交通機関」は、一定度の UD 化が進んでおり利用もされていますが、より一層の UD 化の推進が望まれていることがわかりました。

また、スーパー・コンビニを中心とした「施設」に対するニーズも出されています。身障者手帳を持っている方の回答では、電車等の「交通機関」は全体と同傾向であるのに対して、日用雑貨、オフィス機器、食品パッケージ、スマートフォン・携帯電話、テレビ、スーパー・コンビニ等、より生活に密着し毎日利用する頻度が高い項目に対する期待が大きいことが伺えます。



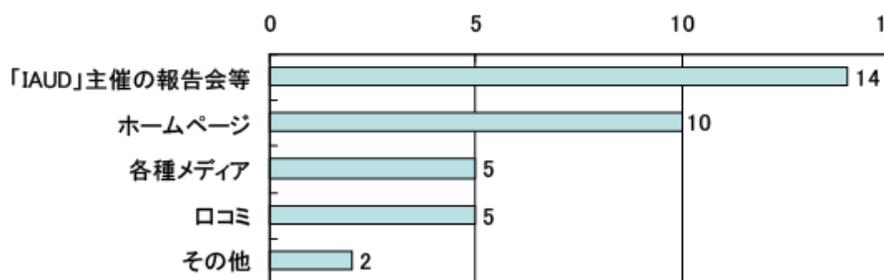
### 4. UD 製品や取り組みを紹介するイベントを期待 ～IAUD 活動内容の認知度及び今後推進してほしい活動

非会員の IAUD 認知度 80%



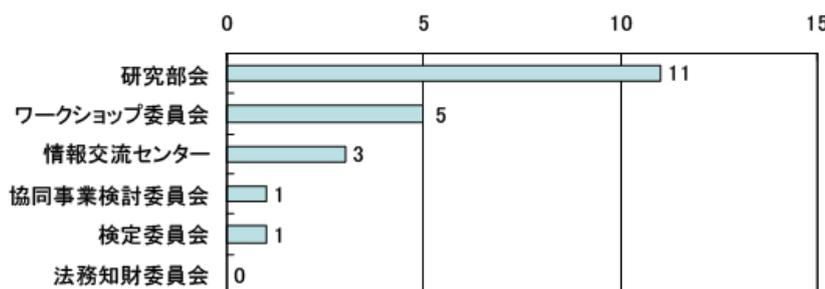
回答者 198 名のうち、会員以外は 52 名（「会員ではない：35 名」+「わからない：17 名」）の回答があり、その層への認知度は、「活動内容まで知っている」が 15 名（43%）、「名前は聞いたことがある」が 13 名（37%）と、非会員の 80% が IAUD を認知していることがわかりました。

## IAUD を知ったのは会議や報告会



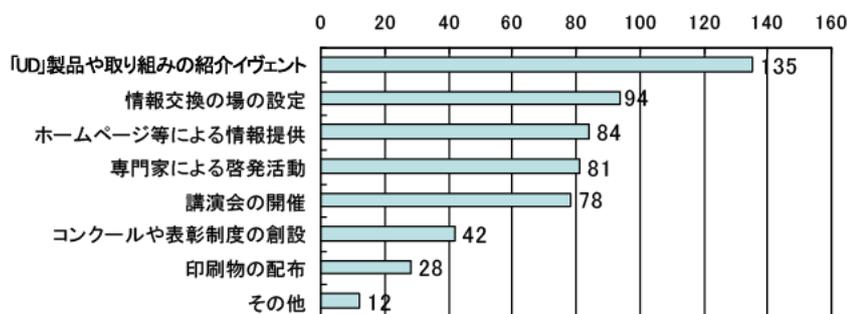
IAUD の活動を知ったきっかけは、「IAUD 主催の会議、報告会等」が 14 名 (27%)、「ホームページ」が 10 名 (19%) でした。

## 低い IAUD 活動内容の認知度



IAUD 各組織の活動内容の認知度については、「研究部会」が 11 名 (21%)、「ワークショップ委員会」が 5 名 (10%)、「情報交流センター」が 3 名 (6%) と、非会員に対しては各組織の活動内容までは浸透していない状況が伺えました。

## IAUD に今後期待する活動



IAUD に望む活動については、「UD に配慮した製品や取り組みを紹介するイベント」が 135 票と最も多く、次いで「情報交換の場の設定」「ホームページ等による情報提供」「専門家による啓発活動」「講演会の開催」と続きました。

「身体障害者手帳」をお持ちの方については、「UD に配慮した製品や取り組みを紹介するイベント」が 8 票と最多で、「情報交換の場の設定」、「ホームページ等による情報提供」、「専門家による啓発活動」がそれぞれ 6 票となり、全体と同一の傾向でした。また、「その他」の意見としては、「行政、地域、企業、メディア、学校等との連携」「UD の社会普及活動」「将来を見据えた育成活動」「地方での活動」等の推進について意見がありました。

さらに、IAUD についての自由欄には、「IAUD の活動内容や運営、UD に関する情報発信力の強化」「会員、官公庁、国内外の他の組織、企業との連携強化」「活動と知的財産の関係の整理」「国際会議の運営」「良いアイデアの実用化推進」「入会のメリット」等、多岐の項目にわたり貴重なご意見を頂戴しました。

## 常に生活者視点に立った活動を推進

今回のアンケート調査を通じて、UDの普及状況やそれに対する会員の要望を把握するとともに、現状のIAUDの活動に対する認知度や評価を確認できました。今後はその調査結果を踏まえ、UDの更なる普及と実現に向けて、常に生活者視点に立った活動を推進して参ります。

※「第1回IAUDアンケート調査」結果の詳細はHPをご覧ください。↓

<http://www.iaud.net/udroom/archives/1303/22-000000.php>



### IAUD アワード 2012 受賞紹介⑦ 大賞/経済産業大臣賞受賞：積水ハウス株式会社 「納得工房体験型研修と SH-UD マスタープランナー制度 による UD 啓発活動」

Newsletter 14号から7回に渡って掲載してきました「IAUD アワード 2012」受賞紹介の最後は、34件のエントリーの中から大賞/経済産業大臣賞を受賞した積水ハウス㈱の「納得工房体験型研修と SH-UD マスタープランナー制度による UD 啓発活動」です。審査委員長のロジャー・コールマン英国王立芸術大学院名誉教授は、「UDの考えを全社の縦横に取り入れて高度に成功したビジネスに築き上げ、さらに一般にも専門家にもこのコンセプトを採用するよう推し進め成功しており、UDの力を未来のビジネスモデルとして立証している」と高く評価しました。この取り組みを、同社総合住宅研究所 技術研究室の田中眞二様にご紹介していただきます。

## はじめに

今回、「納得工房体験型研修と SH-UD マスタープランナー制度による UD 啓発活動」により、IAUD アワード大賞/経済産業大臣賞を頂戴することができました。ロジャー・コールマン審査委員長のご講評から、当社の永年にわたる UD に関する取り組み全体をも評価いただいたの受賞であると理解しております。本報においては、まず当社がすすめる UD/スマートユニバーサルデザインについてご紹介し、さらに受賞の対象となった「納得工房」と「SH-UD マスタープランナー制度」についてご紹介したいと思います。

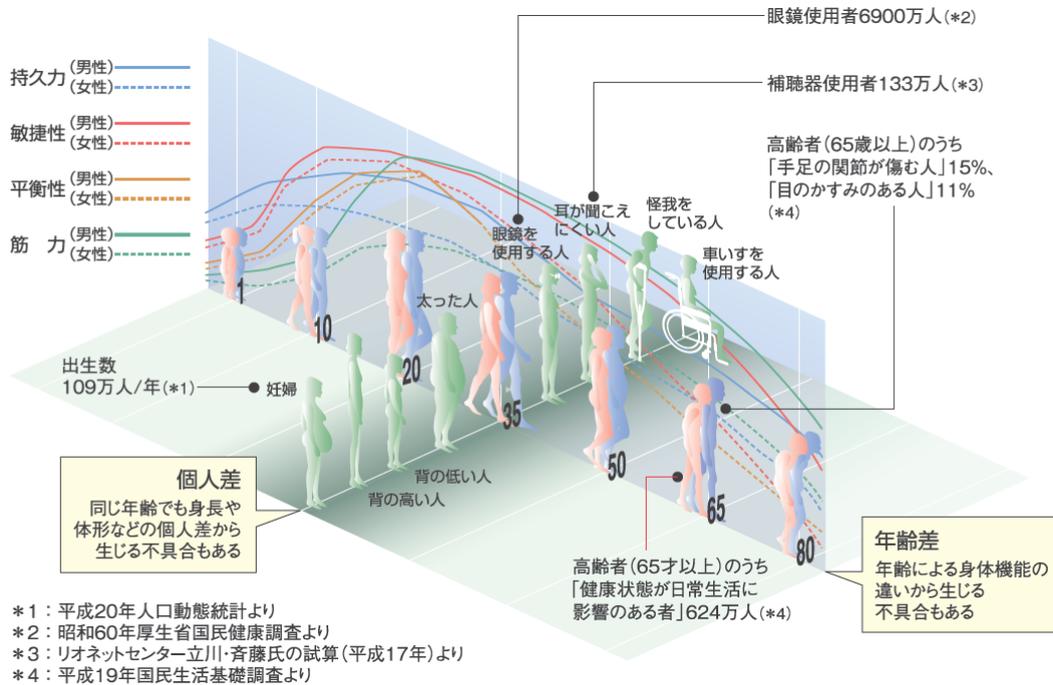
## 全社で UD 推進

住宅は、幼児から高齢者まで様々な特性を持つ人が使う（住まう）ものであり、これら家族全員が快適に暮らせることが必要です。また、住宅は長期に使用するものであり、暮らす人の身体特性や生活のありようが変化していくため、こうした変化を受け止められるものであることも必要となります。

積水ハウスでは、1980年代からこの考え方を「生涯住宅思想」と呼んで「いつも今が快適」をキーワードとして、住宅性能の向上に努めてきました。

1990年代にUDのコンセプトに触れ、「生涯住宅」として進めてきたことはまさに「住宅のUD」そのものであったとの認識に至りました。

そこで、2002年にこれまで培った知見をSH-UD（積水ハウスイニバーサルデザイン）として整備し、全社でのUDの推進を進めることといたしました。



「生涯住宅」が対象とする多様な人

## 五感に響く心地よさ ～スマートユニバーサルデザイン

2010年に、UDの価値をより多くのお客様にお伝えしたいという思いから、UDの目標として「五感に響く心地よさ」を掲げた「スマートユニバーサルデザイン」をリリースいたしました。



スマートユニバーサルデザインでは、たとえば、敷居段差の少ないサッシ（フラットサッシ）について、従来であれば「段差がないのでつまずきません」「車いすでの通過を妨げません」などの価値訴求にとどまりがちだったものを、「室内床から連続して視界がさっと広がるように眺められ、美しい風景を存分に味わうことができます」といった「空間を美しくする」アイテムとして訴求します。

また、階段の手すりでは、従来はもっぱら「握りやすい形状」「適正な設置高さ」などが中心でしたが、スマートユニバーサルデザインでは、「毎日幾度となく手を触れるものだから、サワリ心地のよさがポイント」と考え、無垢の木を採用して暖かみを感じるやさしい質感の手すりをラインナップしています。このような取り組みにより、UDを本当に誰にとっても価値の感じられるものと認識してもらい、あたりまえのものとして普及していくことを目指しています。



## 開かれた体験型研究施設～納得工房でのUD啓発活動

納得工房は、京都府南部の当社の総合住宅研究所の一部で、体験と納得をコンセプトにした「開かれた体験型研究施設」として1990年に開設しました。住まい手と作り手が共に、体験・検証し、納得のすまいづくりを始めるための出発点です。一般の方を中心に、年間3万人あまりの来場者があります。

※納得工房のサイトはこちらをご覧ください↓  
<http://www.sekisuihouse.com/nattoku/koubou/>

## 安全・安心で使いやすい住まい体験

納得工房では「キッチン」「収納」「設備」など住まいに関する様々なテーマについて体験できるようになっています。そのなかでUDをテーマにしているのが「生涯住宅ゾーン」です。生涯住宅ゾーンでは、年齢や個人差による身体機能の違いを受け止めて、安全・安心で使いやすい住まいの重要性を来場者に体験を通して納得してもらうことを目的としています。そのために「GARO体験コーナー」と呼ぶ体験コーナーでは、装具を装着して老化や障がいによる身体機能の違いを体験することができます。



## UDの推進役を養成～SH-UD マスタープランナー制度

積水ハウスでは、身体障がいに対応する住宅を、累計で1500棟以上建設してきました。これらの実績からエッセンスを抽出し、お客様へのヒアリングの進め方、設計手法などの情報を整理して、「チャレンジングデザイン」と呼んで体系化しています。

このチャレンジングデザインを実践できる人材を全事業拠点（約150カ所）に配置することを目標とし、2002年から「SH-UD マスタープランナー養成研修」という研修を実施しています。

研修生は、事業所の設計部門の責任者またはそれに準ずる立場の者としています。これまでに約400人が修了し、全事業所への配置という初期の目標は達成されています。

また、会場は納得工房のある当社の研究所で行っています。最終日に実施される筆記試験と実技試験に合格することが必要です。

さらに、東京商工会議所の福祉住環境コーディネーター2級試験に合格した者に対して、「SH-UD マスタープランナー」という社内資格を与え、UDの推進役として活躍することが期待されています。

SH-UD マスタープランナー養成研修では、座学の他に、納得工房生涯住宅ゾーンにおいて、車いすを使う場合、介助される場合等々、様々な身体状況における動作の特徴および住宅設計での対応方法を、玄関、建具、寝室、洗面、浴室、トイレ等の住宅各部位に関して、自身の体験を通して学んでいきます。

研修後の研修生のアンケートでは「障がい者の立場は頭のみでは理解することはできず実体験する事により本当の意味での理解に近づいたと思う。非常に役立つ研修だと感じた」「あまり設計する事が少ない案件で学ぶ機会が少ないため、この研修で自信がついた」「全体的に濃密なスケジュールで疲れたが、ここまで学べてありがたかった」等、評価の高い研修となっています。



## 新たな住文化を共創～SUMUFUMULAB（住ムフムラボ）

2013年4月に大阪駅前にグランドオープンするグランフロント大阪において、様々なステークホルダーと共創し、新たな住文化を創造するオープンイノベーション拠点「SUMUFUMULAB（住ムフムラボ）」を開設します。

あらゆる世代や価値観の方々が集う“うめきた”で、「生きるコトを、住むコトに。」をテーマに、積水ハウスと「生活者（お客様）」をはじめとするステークホルダーが「感性を磨き」「私らしさを発見」し、「共創」による研究開発拠点として、これからの暮らし

を発見していくための仕掛けを盛り込んでいます。

スマートユニバーサルデザインの取り組みとしては、暗闇で五感が研ぎ澄まされ、普段とは異なる“気づき”が得られる「ダイアログ・イン・ザ・ダーク (DID) ※」との共創プログラム「対話のある家」を設置します。

「感じる力」「関係性の回復」「多様性を認める」を目的に、対話する場を提供し続ける DID とともに、「住まいの快適性の深化」を研究し、コミュニケーション、チームビルディング、リーダーシップの養成を目的とした研修、さらには来館者に感性を高め、五感を再認識していただく施設として展開していく予定です。

納得工房を舞台とした UD の取り組みに加え、これからは住ムフムラボにおいてスマートユニバーサルデザインをより一層進化させることができるものと期待しております。

(了)

※ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン 代表：金井真介氏、所在地：東京都渋谷

## 「住ムフムラボ」全体構成

「生きるコトを、住むコトに。」



※「IAUD アワード 2012」に関しては以下のサイトもご覧ください↓

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1212/14-100000.php>

## IAUD アワード 2013 応募受付開始！

IAUD は一人でも多くの方が快適で暮らしやすい UD 社会の実現に向けて、特に顕著な活動の実践や提案を行なっている団体・個人を表彰する「IAUD アワード 2013」を実施いたします。

今回は、「まちづくり、ものづくり、仕組みづくり等、持続可能な共生社会の実現に向けた革新的な UD 活動や提案」を審査対象とし、UD において一定のレベルを満たしていると審査委員会が判断したものに対して「IAUD アワード」を授与します。

授与された対象（建築、製品、サービス等）には、「IAUD アワード」マークの使用が許され、UD の普及啓発（広報・宣伝等）のために活用することができます。

また、すべての受賞対象の中で、審査委員会が最も優れていると判断したものに「IAUD アワード大賞」を贈呈し表彰する他、IAUD 総裁「特別賞」、「大臣賞」等各賞を予定しています。

第 1 次審査応募締め切りは 5 月 31 日（金）です。皆様からの多数のご応募をお待ちいたしております。

※応募希望の方、また詳細は以下のサイトをご覧ください。

<http://www.iaud.net/event/archives/1303/08-151515.php>



IAUD アワード 2012 表彰式（福岡市）

## 2012 年度 IAUD 成果報告会&定例セミナーのご案内

2012 年度研究部会・委員会活動の締めくくりとして、会員の皆様を対象とした「2012 年度 IAUD 成果報告会」を 3 月 26 日（火）13 時より、富士通トラステッド・クラウド・スクエア セミナールーム（東京・浜松町）で開催いたします。ワークショップ委員会、協同事業検討委員会の活動報告や研究部会から各 PJ/WG の活動報告、さらに昨秋に開催された「第 4 回国際 UD 会議 2012in 福岡」の報告も行われます。

また、同時に各省庁や自治体関係者を講師にお迎えし、UD に関する政策や課題などについてお話いただく「定例セミナー」も開催いたします。

今回は内閣官房行政改革推進本部事務局内閣官房行政改革推進室参事官／元財務省理財局国庫課の渡部晶氏（右写真）を講師にお迎えし、「通貨制度（幣制）と UD」をテーマに、日本の通貨制度の運用状況や、UD の視点から紙幣や貨幣にどのような配慮が施されているかなど、解説いただきます。



※参加ご希望の方及び詳細はこちらをご覧ください↓

<http://www.iaud.net/event/archives/1301/31-000000.php>

※1 月 9 日に開催された「第 1 回定例セミナー」の開催報告はこちらをご覧ください↓

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1301/31-112944.php>



## 締切間近！第2回 UD 検定 初級 講習会&検定試験 実施のご案内

UD の更なる普及と実現をめざす一環として、IAUD が昨年よりスタートさせた「UD 検定」の2回目となる「第2回 UD 検定・初級 講習会&検定試験」を、3月26日（火）9時10分より富士通トラステッド・クラウド・スクエア セミナールーム（東京都港区）で実施します。今回も UD に関する基本的な知識を学習する講習会（2時間）と UD 検定初級試験（1時間・50問）のセット形式です。その場で学習でき、事前の準備が不要ですので、UD に興味のある一般生活者も気軽に参加できます。また、合格者には「UD 検定・初級認定証」が発行されます



第1回 UD 検定 初級 講習会&検定試験（福岡市）

※検定の詳細または参加ご希望の方は、以下のサイトをご覧ください↓

<http://www.iaud.net/event/archives/1301/25-134441.php>

※2012年10月14日に実施された「第1回 UD 検定 初級 講習会&検定試験」の開催報告はこちらをご覧ください↓

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1211/30-111820.php>

## スペイン UD 通信 6.空港

バルセロナのエルプラット国際空港では、写真のように黄色の制服を着た介助者を同伴している車イス利用者をよく見かけます。これは、同空港が2008年から実施しているサービス「Sin Barreras」（バリアフリー）の利用者です。これはあらゆる人々が、問題なく空港を利用できるよう、無料でスタッフの介助を受けられるサービスで、空港に到着してからチェックイン、イミグレーション、機内の座席に搭乗するまで、一人のスタッフが同伴して介助するものです。



バルセロナ市役所 HP によると、2012年の「Sin Barreras」利用者は11万5000人と、多くの方に利用されています。

このサービスは搭乗48時間前までに電話もしくは同空港のウェブで予約すれば、誰でも無料で利用できます。

空港内の玄関や駐車場など 6 か所は、「Sin Barreras」受付（右写真）があり、車いすの無料貸し出しも行っています。

市役所によるアンケートでは、バルセロナ市で実施されているサービスの中で最も高い満足度を得ている「Sin Barreras」。毎年約 800 万人もの外国人観光客が訪れるバルセロナ市。こういった空港でのサービスも観光客が多い要因でしょう。



## IAUD 2013 年 4 月の予定

| 月     | 火  | 水  | 木                                | 金                              | 土  | 日  |
|-------|----|----|----------------------------------|--------------------------------|----|----|
| 1     | 2  | 3  | 4                                | 5                              | 6  | 7  |
|       |    |    | 14:30～<br>メディアの UDPJ<br>IAUD サロン |                                |    |    |
| 8     | 9  | 10 | 11                               | 12                             | 13 | 14 |
|       |    |    |                                  | 13:00～<br>手話用語 SWG<br>IAUD サロン |    |    |
| 15    | 16 | 17 | 18                               | 19                             | 20 | 21 |
|       |    |    |                                  | 13:30～<br>余暇の UDPJ<br>IAUD サロン |    |    |
| 22    | 23 | 24 | 25                               | 26                             | 27 | 28 |
| 29    | 30 |    |                                  |                                |    |    |
| みどりの日 |    |    |                                  |                                |    |    |

Newsletter は会員の皆さまの UD に関わる情報交換の場と位置づけています。企業の UD 商品開発事例や PJ/WG の活動成果事例等の情報、国内外の UD 関連イベント、シンポジウム等の開催情報をお寄せ下さい。ご連絡は [info@iaud.net](mailto:info@iaud.net) へメール、もしくは事務局やサロンへお願いします。

次号は 4 月中旬発行予定

特集：2012 年度成果報告会 & 定例セミナー 開催速報（予定）

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン) :  
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階  
電話：03-5541-5846 FAX：03-5541-5847 e-mail：[info@iaud.net](mailto:info@iaud.net)